



おこたばを述べられる 名誉総裁 高円宮妃久子殿下

海難救助及び本会の事業に功績のあった 6個人・1団体の方々が表彰されました。

平成28年6月1日、東京都千代田区平河町(海運ビル(2階ホール))において、本会名誉総裁である高円宮妃久子殿下ご台臨のもと、来賓として江島 潔国土交通大臣政務官、佐藤雄二海上保安庁長官(当時)及び琴陵容世金刀比羅宮宮司をお招きし、「平成28年度名誉総裁表彰式典」を盛大かつ厳かに執り行いました。

表彰式典では名誉総裁表彰を受章された6個人・1団体に対して、名誉総裁 高円宮妃久子殿下から直接、表彰状・感謝状とともに、個人には名誉総裁章、団体には名誉総裁盾が授与されました。



式典会場に御入場になる高円宮妃久子殿下



名誉総裁表彰式典の様子



名誉総裁表彰審査委員会委員長(相原会長)の挨拶



(公社)日本水難救済会相原会長(右)と向田理事長(左)



ご来賓の皆様(左から江島 潔国土交通大臣政務官、佐藤雄二海上保安庁長官(当時)、琴陵容世金刀比羅宮宮司)

平成28年度名誉総裁表彰受章者

◇海難救助功勞(個人)

特定非営利活動法人

長崎県水難救済会 上対馬救難所

救助員 西原 勝氏(漁船第八共進丸 船長)

救助員 西原 浩勝氏(漁船第八共進丸乗組員)

平成27年9月1日、長崎県対馬市比田勝港の東方約12海里の海域でいか釣り漁船を行っていたいか釣り漁船恵比須丸が、風浪が激しくなったため操業を止めて帰港しはじめた午前3時頃、突風を受けて船体が右舷側に傾き始めたため、同船船長は危険を感じて救命胴衣を着用のうえ船外に脱出したが、直後に同船が転覆したため、漂流しながら救助を待っていた。

一方、同海域で同様にいか釣り漁船を行っていた救助員2名は、午前3時頃、恵比須丸から「風が強くなってきたため帰港する」旨の無線連絡を受けていたが、午前4時頃、無線で呼びかけても応答がないため異変を感じ、直ちに同いか釣り漁船が操業していたと思われる海域に急行し、捜索を始めた。間もなく、微かな油の臭いに気付いて付近海上を捜索したところ、午前5時30分頃、船底を上に向け転覆している同船を発見するとともに、約300メートル離れた海上において漂流中の船長を発見し、夜間荒天の下で救助員が一致協力し、午前5時50分頃、無事救助した。



名誉総裁から表彰状及び名誉総裁章を授与される上対馬救難所救助員 西原 勝氏及び同 西原 浩勝氏



受章した上対馬救難所 救助員 西原 勝氏(右)、同 西原 浩勝氏(中央)及び長崎県水難救済会池松事務局長(左)



対馬東方約12海里の海域で転覆漂流中のいか釣り漁船恵比須丸

平成28年度 名誉総裁表彰式典



◇海難救助功勞（個人）

特定非営利活動法人

長崎県水難救済会 豊玉町救難所

救助員 築城 哲則 氏

(漁船第二十五友盛丸船長)

救助員 原田 政範 氏

(漁船第八豊進丸船長)

<協力者>

漁船第二十五友盛丸乗組員 中井 義廣 氏

漁船第八豊進丸乗組員 原田 徳夫 氏

平成27年9月1日、長崎県対馬市美津島町の東方約14海里の海域でいか釣漁を行っていた漁船第一吉栄丸が、午前3時頃から突風を伴った雨が激しく降り始めたため、帰港準備にかかっていた午前3時40分頃、大きな三角波が船内に打ち込み船体が次第に右傾斜し、機関室に海水が流入して機関が停止したことから無線により僚船へ救助要請した。その直後に同船は転覆し、救命胴衣着用の船長及び救命胴衣未着用の乗組員1名は海中に投げ出された。

一方、同海域で、いか釣漁を行っていた第二十五友盛丸及び第八豊進丸は、同日午前3時頃から風雨が強くなってきたため、それぞれ帰港を開始した直後の午前3時40分頃に第一吉栄丸から救助要請を受け直ちに現場に引き返し捜索していたところ、第二十五友盛丸が微かな笛の音を聞きつけて、漂流中の船長を発見し、夜間の荒天の下で救助員と協力者が一致協力し、午前4時30分頃、無事救助した。また、続いて現場海域で捜索中の第八豊進丸も、午前4時30分過ぎに波間を漂流していたもう一人の乗組員を発見し、夜間の荒天下に救助員と協力者が一致協力し、午前4時40分頃、船内に収容し無事救助した。



名誉総裁から表彰状及び名誉総裁章が授与される豊玉町救難所 救助員 築城 哲則 氏(左)及び同 原田 政範 氏(下)



協力者：故 中井 義廣 氏
(本年3月病気のため急逝されました)



名誉総裁から表彰状及び名誉総裁章が授与される故 中井 義廣 氏のご親族 三原 真司 氏



協力者：原田 徳夫 氏



名誉総裁から表彰状及び名誉総裁章が授与される原田 徳夫 氏の代理 豊玉町救難所長 原田 義治 氏



対馬東方約14海里の海域で転覆漂流中のいか釣り漁船第一吉栄丸



◇事業功勞（団体）

南日本造船協力事業協同組合

(代表：同組合代表理事 伊高 和夫 氏)

本会が行なう水難救済事業の重要性を深く認識し、南日本造船株式会社と協力し、清涼飲料水を購入することにより売上金の一部が青い羽根募金として寄付される「青い羽根募金支援自動販売機」を工場内に設置し、平成23年3月15日から平成28年2月15日までの間、青い羽根募金に多額の寄付をし、本会事業に抜群の功勞があった。



名誉総裁から感謝状及び名誉総裁盾を授与される伊高 和夫 氏



祝辞を述べられる江島 潔国土交通大臣政務官(左)及び金刀比羅宮宮司 琴陵容世 氏(右)



受章者を代表して謝辞を述べる豊玉町救難所救助員 築城 哲則 氏



懇親会で紹介される受章者の方々



懇親会の開会挨拶を行う相原 力 会長



懇親会にて御挨拶をされる佐藤 雄二 海上保安庁長官(当時)



懇親会にて中締めのお挨拶をされる長崎県水難救済会 福田 一幹 副会長(日本水難救済会理事)